

去る4月19日、大阪天満橋のドーンセンターにて、Dr.ロス御夫妻によって設立された「グリーンチムニーズ」について、ビデオやスライドを交えての講演会が開催されました。参加者は約50名と、決して多くはありませんでしたが、アットホームな雰囲気の中で大変貴重なお話を聞くことが出来ました。設立から50年間の様々な御苦労の積み重ねがあってこそ、現在のグリーンチムニーズがあるという事がよく分かりました。

50年前、Dr.ロスがまだ18才のときに、心に問題を持った子供達(3~6才)を預かりました。当時は生活の糧として、家畜を育てながら生計をたてていましたが、毎日の世話をし、育てている内に情が移り、殺して食べるという事が出来なくなったそうです。むしろ逆に傷付いた動物達を保護し、子供達にも世話を手伝ってもらおうという事からこの活動が始まったそうです。

今では、10~21才の100人もの子供達と、400匹の動物と一緒に暮らしています。ここに来る子供達はかなり重い精神障害を持ち、病院からの紹介、又は親に虐待されたり、若い母親から望まれずに生まれて来た子供がほとんどです。このセンターは、スタッフ、セラピストやカウンセラー等、多くの専門家によって支えられています。これらの職員達が出動するときに、自分達のペット(小鳥、犬など)

TOPICS

THANK YOU ANIMALS

by Gillian Nakatsuji

Dr. Ross and his wife Mila gave a talk about their life's work at Green Chimneys at the Dawn Centre in Osaka on April 19th. The lecture was attended by about 50 people. Gillian Nakatsuji writes her impressions of their talk.

How come I hadn't heard of Green Chimneys before?

It is truly a success story in Human-Animal bonding. A vision of one remarkable man.

Green Chimneys was originally a working farm incorporating a boarding school. Dr. Ross, its founder, couldn't bear to kill any of the animals for food so the numbers grew. At the same time he took in injured and abused animals.

As the children at the school began to help care for the animals, Dr. Ross and his wife witnessed the transformation



動物と子供のふれあい学校「グリーンチムニーズ」

アークスタッフ／永井恭子

設立者・Dr.ロスの講演を聞いて

を連れて来るのはとてもユニークで面白い事だと思いました。

現代社会は、建物の中で電気、コンピュータなどに囲まれた生活、「Suit & Laptop」(背広とラップトップ・コンピュータ)と言われ、人間同士のコミュニケーションが出来なくなって来ています。そこでグリーンチムニーズでは、「Arm & Back」(腕と腰)を使って、外に出て実際に自分の体を動かし、人間同士のコミュニケーションを取りながら働く事で、精神的治療を行っています。

早朝、朝日が登るのを見て、動物、植物の世話をし、1日の仕事が終わる、夕日が沈むのを子供達はじっと見つめています。そこから、建物の中に囲まれた生活では体験することの出来ない、自然と共に生活する事の大切さを知るのです。

ジミー君(10才)の場合

ジミー君は、片羽根のない野生のフクロウのつがいを世話しています。数カ月後、彼らを育てていると言う事に自信を持ち始め、笑顔を見せるようになって来ました。フクロウの巣では、卵が産まれている。そこでDr.ロスは、親は飛ぶことが出来ないけれど、新たに産まれたフクロウは野生に戻そう、とジミーに相談します。彼等と別れなければならないと言う事に、とてもショックを受けるジミー君。

しかし、旅立ちの日がやって来ました。他の子供達と一緒に、夜中に(フクロウは夜行性なので)本来暮らすべき



Green Chimneys

providing care & concern for
all living things since 1947

場所に飛び立って行く場面を見守りました。とても感動的なシーンでした。

グリーンチムニーズの子供達も、2年前後で社会に巣立って行くそうです。

動物の苦手な子供達には、園芸をはじめ、水泳、美術、音楽、と色々なものを取り入れた12ヶ月間のセラピーを目的とした、レクリエーション/リハビリテーションが行われています。

私は特に、動物介在療法(AAT=animal assisted therapy)に興味を持ち、是非一度行ってこの目で見たいと思いました。アークで働いていると、子供達がどこまで動物の世話をしているのだろうか、年間2万人もの見学者をどのようにして対応されているのだろうか、とお伺いしたい事もたくさんあったのですが、残念ながら時間切れとなってしまいました。

しかし、他の質問の中に、「地域の人々からの反対はありませんか」との問いに、「とても良い事をされていますね。でも[Not in my back yard](私の家の近くではやめて下さい)。」どこの国でも同じなんです。

